

令和3年4月以降の住宅に係る省エネ評価方法について

2021年4月7日

最新の技術基準等については建築研究所の技術情報または国土交通省HP等によりご確認ください。

①新地域区分への完全移行

・新旧対照表 <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/content/001344191.pdf>

②平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報（住宅）の変更について

（参考）各制度における計算支援プログラム等の扱い（R3年4月以降） <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/content/001364799.pdf>

令和3年4月1日以降 Ver3.0 **（※Ver2.8も令和4年3月31日（予定）まで使用可能です）**

※外皮計算と一次エネルギー消費性能プログラムのバージョンを合わせてください。

外皮性能の計算 Ver2.8 ⇒ 一次エネルギー消費性能プログラム（Ver2.8）

外皮性能の計算 Ver3 ⇒ 一次エネルギー消費性能プログラム（Ver3）

（ここでいうVerは建築研究所の技術情報のものです。ご利用の計算ソフト等がVer2系かVer3系かどちらに該当するかは発行元にご確認ください。）

Ver2からVer3の主な変更の概要

1. 取得日射熱補正係数の評価方法

CSVデータから必要な数値を読み取り評価する方法の廃止、新たに「日よけ効果係数算出ツール」を用いた評価方法

2. 簡易計算法（外壁の部位の面積等を用いない方法）に鉄骨造、RC造も計算可能

3. 部位の熱貫流率算定方法

・簡略計算方法①のうち、付加断熱する場合の面積比率の廃止、今後は下地材などの熱橋部を有する場合は、外張断熱又は付加断熱の熱抵抗に0.9を乗じて計算するルールに統一

・簡略計算方法②（熱貫流率補正法）が廃止

4. 基礎及び土間床等の熱損失の評価方法

・土間床等の外周部の熱損失と基礎壁の熱損失は別々に評価することに変更

今後は、①基礎形状によらない値を用いる方法 ②代表的な仕様の計算例（表）から選択する方法 ③WEBアプリケーションを用いる方法 ④従来の評価方法（**当面の間、標準計算ルートにおいて従来の評価方法を利用することが可能**）

5. 建具とガラスの組み合わせによる開口部の熱貫流率の廃止

従来の「建具とガラスの組み合わせによる熱貫流率」仕様表が廃止

今後は、日本サッシ協会や板ガラス協会等のカタログや仕様表によって確認方法や簡易計算法

その他の変更については↓ 2021年4月における評価方法の変更概要 建築研究所 R03.04.01公開

https://www.kenken.go.jp/becc/documents/house/EnergyProgramforHouse_Ver281toVer300_210401.pdf

※従来の技術資料に基づく場合は、外皮計算及び一次エネルギー計算はVer2.8としてください。

例 ・従来の簡略計算法②を使用した熱貫流率を使用する場合

・窓等の熱貫流率について従来の「建具とガラスの組み合わせによる熱貫流率」仕様表とする場合

・台所、洗面水栓の水優先吐水機能が従来の基準に基づいている場合 など

（※Ver2.8は令和4年3月31日（予定）まで使用可能です）

（参考）

一般社団法人 住宅性能評価・表示協会
ポータルサイト

<https://www.hyoukakyukai.or.jp/>

※Ver2.8とVer3.0は分かれていますのでご注意ください。

